



## 普段着の私



医事調整課長 田中 哲也

我が家には7歳になる雌のチワワがいます。生後4ヶ月から家族の一員となった我が家の「癒やし係」です。おとなしく従順な性格は聞き役に適任で、子ども達が学校から帰るや何か話しかけたり、同意を求めたりする様子を見るにつけ、その存在は日常の一部となっています。

かくいう私も、「元祖癒やし係」の子ども達が思春期を迎え、気軽にスキンシップ出来なくなった今、彼女へのスキンシップが私の日常となっています。

そんな彼女ですが、どういうわけか家の中では絶対にトイレをしません。そのため散歩は我が家の新たな家事となり、また休日といえども待ちかねなので、休日担当である私の朝夕はおかげで規則正しくなりました。散歩の時間やコースは犬任せなので、荒天時は人も犬もずぶ濡れになることも。

そろそろ老犬の域に達してきていますが、人も犬もできるだけ長く、仲良く、健康に過ごせて行ければと願っています。



主任検査技師 高野 和貴

休日は地元少年団のソフトボールチームのコーチをしております。監督・コーチは親が担当しているのですが、下は小学1年から上は6年まで幅広い年齢層が入団しており、その教え方に四苦八苦しています。褒める時と叱る時のタイミングやバランスが難しく、どうすればやる気を出してくれるのか、こちらは必死なのですが、子は何食わぬ顔。子を教えているのか、親が教えられているのか分からなくなる時があり、気力・体力とも結構大変なのですが、ちょっとだけ良いこともあります。それは、子どもたちと一緒に身体を動かしていると毎年の健診結果が若干、いや微妙に、いや気のせいかもしれないが良くなっているような気がするのです。さあ、今週末も子どもたちの「やる気スイッチ」を探しに行くとするか。



## 近所紹介

### ～ 光都学園 ～

病院の駐車場前にある「光都学園」を訪れました。大野園長は、最も大事にしていることは、「敬愛信」であり、「時間がゆっくり流れる環境の中で子どもたちが育っている」「人が人と育ち合って、大人も一緒に育つ経験をしている」と話されました。坂本指導員は、「普段やんちゃな2歳の子も、もっと小さい子が学園に入るととてもやさしい面を見せる。子どもの言動から大人も自身の行動を見直すことができる」と言われました。また、子どもたちが外遊びやマラソンをする中で、西播磨病院に入院している患者さんと挨拶をかわし、お互いに元気づけられ今でも交流が続いているとの話がきかれ、嬉しい気持ちにさせていただきました。

ママさん職員がお世話になっている場所と思い訪れたのですが、入院している患者さんにとっての癒しの環境の一つであることも知ることができました。とても元気な子どもたちに元気づけられた私自身、貴重な経験ができました。皆さんも子どもたちと出会ったら、元気に声をかけ合いましょう。



#### 基本理念

敬・愛・信

リハビリテーション西播磨病院だより

# ひがりの都

2015年  
5月発行



写真提供：堀内 聡氏



## 新年度のご挨拶

院長 横山 和正

春になって急に暖くなり、桜の花も一気に咲き、散り急ぎました。しかし、その後、天候は不順で雨が多く、皆様、体調管理が大変であったと想像します。

リハビリテーション西播磨病院は、今年4月で開院9年目に入りました。開院当初は、リハビリテーションに特化した病院であるという特殊性と、テクノポリスという下界から離れた場所にできたことから、西播磨の人々からは心理的に距離があったと思いますが、現在では、入院病棟は空床がないほど、常に多くの患者さんがリハビリを受けておられる状態が続いています。利用される方々も、西播磨はも

ちろんのこと、県外、遠くは、東京・大阪、あるいは、九州や四国からも来院されるようになりました。

当院は、脳卒中、脊髄損傷、脳障害、神経筋疾患、外傷などのリハビリに特化して今年度も診療を続けますが、特に、重度の障害や、高次脳機能障害、失語症、嚥下障害など、リハビリに工夫が必要な病状にも積極的に取り組んでいます。また、当院は、西播磨圏域の認知症疾患医療センターの指定を受けており、柿木センター長の退職後、櫻林医師が新たにセンター長に就任し、若く新進気鋭の藤田医師も4月から赴任し、気分一新して認知症や高次脳機能障害の診療に取り組む体制ができました。

リハビリは急性期から遅れなく早期に開始し、患者さんやご家族ができるだけ納得できる状態で自宅へ帰ることが理想ですが、地域へ帰られてからも身体機能が維持されているか、また、地域や家庭で役割を持っているか、など、地域での生活の状態も当院として気になっているところです。この4月から、3月まで当院看護部長であった井上が、総合相談室・地域連携室長として就任し、急性期病院との連携や地域とのつながりを一層円滑にできることを期待しています。

今年度も、県民の皆様に満足していただけるように診療を充実させていただきますので、ご支援をお願いいたします。

**Play Sport**

西播磨総合リハビリテーションセンター  
ふれあいスポーツ交流館

TEL 0791-58-1313  
FAX 0791-58-1323

〒679-5165 たつの市新宮町光都1-7-1

## “おんせん”と“うまいもん”でおもてなし

松葉ガニ、ホタルイカ水揚げ量日本一！  
山陰浜坂



松プラン

平日1室2名様利用、1泊2食付  
大人お一人様(60歳以上の方)

9,750円

※いろいろなプランがあります。詳細はHPをご覧ください！

浜坂温泉保養荘

〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775  
TEL 0796-82-3645 FAX 0796-82-3647

<http://www.hamasaka-ni.com/>



## 新任・転入職員のご紹介（順不同）

当院に新しく着任したスタッフを紹介します。皆様よろしくお願い致します。

### ●センター次長兼管理局长



永良 新（転入）

### ●診療部



精神科医長  
藤田 純（新任）

### ●看護部



中野 由美（新任）  
患者さん・家族さん第一の看護を  
提供させて頂きたいと思ひます。



畑尾 朱香（新任）  
日々成長できるよう努力し、笑顔で頑  
張ります。



看護部次長  
柏木 史江（転入）



石野 麻紀（転入）



阿曾 光子（新任）



大久保沙貴（新任）

### ●リハビリ療法部

#### 【心理判定員】



因來 愛実  
（転入）

#### 【理学療法士】



高田 佳菜  
（新任）



塩見 幸菜  
（新任）

#### 【作業療法士】



三木 朋子（新任）  
患者様を安心させられるセラピス  
トになれるように精一杯頑張りま  
す。よろしくお願い致します。



細田 里穂（新任）



辻 知世（新任）

#### 【言語聴覚士】



池澤 祐子（新任）  
一生懸命頑張りますので、よろし  
くお願いします。



花尾 沙也香（新任）



## 認知症疾患医療センターの紹介（シリーズ第1回）

平成37年には認知症と軽度認知障害（認知症と正常の中間の状態）の人を含めると700万人前後（兵庫県の総人口の1.3倍）これは65歳以上の5人に1人の割合です。このような状況において、「認知症疾患医療センター」は、認知症の人とその家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるための切実な施設と位置付けられています。

私たち一人ひとりの  
「認知症観の転換」  
が必要ね。



「認知症疾患医療センター」は、都道府県や政令指定都市が指定する病院に設置されており、平成26年10月現在では全国に278カ所、兵庫県では11カ所が指定されています。

西播磨認知症疾患医療センターは医師2名、看護師2名、保健師1名、作業療法士1名を中心に西播磨圏域の認知症に対する医療・保健・介護・福祉の水準の向上のために、“小さなことからコツコツと”がんばっています。今回の特集では、私たち「認知症疾患医療センター」が行っている業務について解説します。

☆ **もの忘れ外来**：地域のかかりつけ医の先生からのご紹介で、認知症の鑑別診断をしています。  
（H26年度：認知症の鑑別診断数891件、総外来件数3338件）

☆ **もの忘れリハビリテーション（通院リハビリ・訪問）**

作業療法士が個別に対応し、その人らしい生活をサポートしています。状況に応じて、作業療法士、看護師、保健師がご家庭を訪問し、体調チェックやリハビリテーションのアドバイス等行っています。



☆ **もの忘れ専門医療相談（電話・面談（要予約））**

保健師、看護師が、認知症の予防・治療、お薬や介護など個別に相談をお受けしています。  
（H26年度：電話1832件、面談362件）

☆ **医療・保健・介護・福祉関係者などとの定期的な連携協議会や、研修会の開催**

年間研修講師数：42回

☆ **認知症に関する情報発信**

リーフレットや認知症疾患医療センターホームページをぜひご覧ください。

☆ **かかりつけ医・精神科病院、地域包括支援センターなどとの連携**

私たちが地域の医師会や地域包括支援センターと作成した、ケアパス（認知症の状態に応じたサービス提供の流れ）である「西播磨認知症オレンジライフサポート」については、**次回**に詳しく紹介します。

☆ **認知症高齢者に対する効果的な機能訓練の推進事業（西播磨県民局受託事業）**

高齢になっても（認知症があってもなくても）、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けられるためには、通所介護事業所等で看護師や介護士などのスタッフが、より効果的に機能訓練を実施することが必要だと考え、プログラムを開発しました。今年度は西播磨圏域の普及啓発・効果検証のため、通所介護事業所等での実施や、研修等を行います。詳しくは**次々回**に紹介します。

☆ **認知症カフェ立ち上げ支援事業（西播磨県民局受託事業）**

国の認知症施策“新オレンジプラン”でも、認知症カフェ設置が進められています。認知症カフェとは、「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場」とされています。詳しくは**次々回**に紹介します。

皆さん、ホームページや病院紹介DVDに茶色い謎の動物のキャラクターが登場しているのをご存知ですか？

今回は、この茶色い謎の動物についてお話をします。

名前は「にしかちゃん」、鹿の妖精なのです。

「にしかちゃん」は、旅の途中、西播磨病院の近くで怪我をしてしまいました。その時、緑の鳥「りんさん」が現れ、人間の姿に変えてもらい、病院でリハビリをした後とても元気になりました。

入院中にたくさんのひとの優しさや愛情に触れた「にしかちゃん」は、元気になった今でも西播磨病院に居て、みんなが笑顔になれるようこっそり応援してくれています。

こんな「にしかちゃん」を今後とも宜しくお願いします。

#### 【プロフィール】

名前： にしか  
愛称： にしかちゃん  
性別： 不明（男の子？）  
誕生日： 平成18年7月  
性格： のんびりのびのび、やさしい、がんばりやさん  
すき： 食べること、寝ること（最近メタボぎみ）

